

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人 敬聖会		
事業所名	グループホームききょう (和ユニット)		
所在地	函館市桔梗町557番地		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームききょうの職員全てが、有資格者であり、利用者さんへのサービスは施設理念をもとに個別のケアにて自立した生活が送れるよう支援を行っており、生活相談員、看護師、ケアマネ、介護士とそれぞれがもつ役割で連携を取り、利用者さんの生活の支えになれるよう、サービスを提供するように努めております。住宅街から離れた場所にあり、地域との連携に困難もありますが、運営推進会議にて町内会や包括支援センターへの働きかけや、家族会の開催を行い協力の働きかけを行っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400146-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4ユニットのホームでそれぞれが利用者の個別性を大事にしながら「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を理念に掲げて日々の暮らしを作りあげています。社会福祉法人の運営母体は医療関係で健康面の支援を受けやすく、利用者や家族の安心につながり、運営も安定しています。生活相談員という専門職員を配置し、行政との関わりや介護保険制度の手続きなどパイプ役として効率的な業務を担い、ユニットや家族から好評を得ています。住宅地とは離れていても、隣接する法人内の施設とは合同の訓練や利用者の日常的な交流、更に連携が行き届き、職員の安心感が増しています。とくに、公共交通機関が無い地域で、病院が用意する送迎バスは家族の足となつて有効に利用されています。各ユニットは2台のモバイルを有効に活用し、効率的な記録方法で、より密着した利用者との関わりはケアに活かされ、至るところに利用者本位の支援の充実感が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルームに貼り、ミーティングや勉強会等で確認しあい常に念頭におきサービスにあたっている。	理念を常時考え、利用者とのかかわりの中で具体的に実践しています。「ゆっくり、いっしょに、たのしく」はわかりやすく至るところに掲示があり、職員に深く浸透しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二か月に一回の運営推進会議に町会役員の方に参加して頂き、意見交換を行っている。	郊外に位置していますが、敷地内のケアハウスや老人保健施設を地域と考えると様々な交流があります。また、町内からは運営推進会議に出席者がいて関わりをもっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一回の運営推進会議に町会役員の方に参加して頂き、グループホームでの生活の様子や支援の内容を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	花見や夏祭りを運営推進会議に取り入れ、地域・包括・家族の方々に参加して頂き意見交換の場所としている。	定期的に行われる会議はケアハウスを会場にし、町内や地域包括支援センターからも参加があり活発に意見交換をしていることが記録の中からも伺うことが出来、家族に報告もあります。会議と行事を一体化させて家族の参加が多くあるように工夫されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に生活相談員が市町村担当者と連絡を取り合い、窓口となりサービスの状況を伝えている。	生活相談員が主となって市と連絡を密にして、相談や業務の実情など、詳細に協力しあっています。生活保護の方の受け入れもあり、4ユニットのグループホームとして期待されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為施錠しているが、その他は開錠している。身体拘束の研修に参加したり、ミーティング時に十分に話し合い拘束は行っていない。	外部研修のテーマに身体拘束を選んで、職員が参加して学んだことを全職員が共有しています。常に身体拘束をしないケアのあり方を目指して取り組んでいます。玄関の施錠は夜間のみとし、自動ドアで開閉するので呼び鈴を設置して把握に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加したり、ミーティングや勉強会等で確認、話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、勉強会やミーティング等でスタッフと共有している。該当するような利用者がいた際は、活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	生活相談員が契約時、退去時に家族や利用者の不安や疑問点を聞き十分な時間をとりながら分かりやすい説明を行えるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ年に数回意見を聞いたり来訪時や運営推進会議等でも意見を頂いたり、家族会を開催し意見や要望を言える機会を設け運営に反映させている。	ホームで家族へのアンケートを実施し参考にして運営に活かしています。利用者の声は即聞ける体制で、取り組めることは実践しています。また、面会のときは気軽に家族と対話をしています。家族会の開催にも取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティング時に機会を設けたり、施設長、管理者と個別に面談を行い意見を聞けるようにしている。	職員は良好な関係づくりが構築され、管理者や施設長と話せる雰囲気になっています。職員と面談の時もあり意見を聞く場を設定しています。待遇についても考慮され、職員は落ち着いて業務に精励しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って貰えるよう勉強会や研修に参加出来るよう促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修等、個々のレベルにあった研修会への参加を促し、勉強会の内容の希望を聞き、個々のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他施設の職員と事例について話合ったり、意見を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には、会話の中から本人が思っている事を少しずつ聞きながら信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談だけでなく、電話にての相談や来訪時、不安や求めている事を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	規模に添えるようスタッフで話し合い、どのようなサービスが良いのかを話しながら、サービス提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で不十分な所はサポートしながら、本人の得意な事や知識を引き出し、支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来訪時に本人の状況を伝え、何かあった際はすぐ連絡するようにしている。又、今までの生活を踏まえどのようなケア方法が良いのか一緒に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚の面会時はまた来てもらえるように声をかけたり電話や手紙でのやりとりが出来るよう代行したりしている。	生活歴や入居以前のことを大事にし、兄弟からの情報を聞き取ってなじみの関係が切れないように支援しています。家族の協力で年賀状や電話の交流を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話しやすいソファの配置工夫し、関わり合いが出来るよう場作りをしている。必要時にはスタッフが介入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお見舞いに行ったり、家族の相談に乗ったりし関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中からその人の希望を聞き、困難な場合は家族へ情報を求めたり、スタッフ間で情報を共有しながら支援している。	利用者の介護記録にはモバイルを活用し、時間を有効に使い利用者や寄り添うことを重視して思いを把握する努力をしています。利用者の担当職員を決めてより深く関わることにしています。その結果本人本位のケアの実践に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やバックグラウンドを詳しく探り、必要時には家族やそれまで関わっていたケアマネ等に情報を貰っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や排泄チェック表を細かく記し申し送り等スタッフ間で情報を共有しながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時やカンファレンスにて意見を頂いたり、毎日の申し送りや月のミーティングにてスタッフ間で話し合い介護計画に活かしている。	利用者に多く関わる職員が見直しのポイントを提示し、現状にあった介護計画が作成できるように3ヵ月毎に見直し、6ヵ月毎に作成しています。また、日々の記録にわかりやすく反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録は関わりで記入し、他に変わった事や気付いた事はなるべく詳しく残し、介護計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ希望に添えるよう家族との外出に付き添ったり、行事がある際は一緒に参加したりとニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院の売店や、良く利用する近隣のスーパーでは会計時困難な場合店員さんが手伝ってくれたり、荷物を持ってくれる等の配慮もしてくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特変時にはすぐに医師から家族へ病状の説明を行ったり今後の事を話す機会を多く設け、情報の共有を密に行っている。	内科の受診は法人内の病院です。眼科、皮膚科、歯科、整形外科は定期的な往診があり、適切な健康管理を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや状態の変化があった際はすぐ看護師に相談し、支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁にお見舞いに行き、状態や今後の治療について看護師等から必要時情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針や必要な説明事項は用意しており、必要時行っている。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」と「看取りに関する指針」を家族と取り交わしています。実際に状況と判断して、指針を実践しています。見取りのときは家族が利用者の居室に泊まり一緒に見取りが出来る態勢となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し備えており、AEDの講習も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと定期的に訓練しており、訓練の時には他施設とも協力し行っている。又、運営推進会議開催時、災害時の救助方法や搬送方法を実際に行い地域との協力を得て災害時の対策を行っている。	災害の危険性は少ない環境にありますが、昼夜を想定した災害訓練は年2回実施しています。近隣の施設とは合同の取り組みがあります。ホーム独自の訓練もしています。飲料水及び防火用水の確保、食料、防寒具、オムツなど備蓄品も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗した時や、わからないような時は他者に気付かれないようにさりげなくフォローしたり場所を変えたりしている。	ホーム全体が落ち着いた雰囲気、職員の言葉かけや対応はゆったりとしています。プライバシーに配慮して人格が尊重され居室のトイレ誘導など自然体のケアがされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい際は選択肢を与えたり、きっかけ作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった時間ではなく好きな時間に入浴や食事が出来るよう本人のペースに合わせてセッティングしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい服を選んでもらったり、外出時には早めに声を掛け化粧や身だしなみを整える時間をとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや茶碗洗いをしたり、食事の際は会話が弾むような場面作りや、誕生日にはそれぞれが食べたい物を提供している。	主食はユニットで自炊されますが献立の作成や副食は近隣のケアハウスから調理後提供されます。盛り付けや後片付けなどは利用者も参加して行われています。しかし、職員は検食者以外は同じ食事ではなく持参して食事しています。	行事時は同じ食事をしますが、普段はユニット1名のみ一緒に食べます。グループホームの本来の姿勢で利用者と職員が共に食事をする体制づくりが求められます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事量や水分量を把握し、野菜が嫌いな人には飲みやすい野菜ジュース、青汁ヨーグルト等工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行うのが困難な方にはスタッフが代行したり、介助をし定期的にポリデント洗浄もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時のトイレ誘導ではなくその日の状態やサインに気付き対応している。	各居室にトイレが設置されています。利用者は自分ひとりの利用で職員は排泄パターンを把握して自立に向けて支援しています。オムツで全介助の利用者には、快適に過ごされるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に青汁ヨーグルト、野菜ジュース、牛乳を提供したり散歩等体を動かし予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも快適に入浴出来るように追い炊きをする等して入浴出来るようにしている。	曜日に縛られずにいつでも入浴できるように準備されています。利用者の要望に応じて、複数で対応し身体的に無理なようでも入浴を楽しめるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るように希望に沿った時間に居室を温めたり、湿度を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬なのか内容をチェックし服薬変更の場合はこまめにバイタルチェックや状態観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗片付け等の家事作業やその人にあった趣味活動が行えるよう場作りしたり、常に好きなお茶やお菓子を用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物を希望された際は出来るだけ直ぐ行けるよう調整している。又、法事や墓参りには家族に協力して頂き一緒に行っている。	ホームでは全体で外出行事を年数回実施しています。個別の外出は要望により、直ぐに実施する体制作りができています。家族の協力で利用者の楽しみが増加しています。短時間でも外出を個別にこまめに実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来るか見極め、管理出来る方にはお金を渡しており買い物時等出来るだけ自分で支払って頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話のない方が希望の際にはスタッフルームの電話を使用して頂いたり、常に切手やハガキを用意しており手紙のやり取りが出来るようにしている。困難な方には必要な所のみ手を貸している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サロンには季節を感じられるような飾りつけをし、又、エントランスにもイベントごとにお雛様や、クリスマスツリー等を飾る事で共有スペースとして活用されている。	ユニットの入り口は自動ドアでいつでも来客が出入り自由です。下駄箱のところに利用者一人ひとりの郵便受けが設置されています。居間はゆったりとし、台所は利用者と対面で会話を楽しみながら炊事が出来るようになっていました。共有のスペースは日めくりカレンダーはもちろん、様々な季節の飾り付けがあり、のんびり、ゆったり、広々したつくりです。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせるよう離れた場所にソファを配置したりみんなで談話しやすいように二人掛けソファを使い対面出来るように配置している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持って来てもらっており、本人が過ごしやすいしつらえをしている。	居室にはトイレと洗面台が配置され、個別のケアがなされています。入り口には飾りのスペースがあり、個性的な表札がわりととなっています。それぞれが馴染みの家具を配置し、パソコンやテレビ・冷蔵庫を持ち込んで安心した自分の居室としています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入り口に写真や表札をさげ自分の居室をわかりやすくしたり、その人にあった椅子を使用している。			